

株式会社 **サカタのタネ**

本決算説明資料 – 2022年5月期

2022年7月21日



I	2022年5月期 本決算の概要	3~15
II	2023年5月期 通期予想および配当政策	16~22
III	グローバルな成長に向けた取り組み	23~48
IV	2022年5月期 通期 資料集	49~52

I 2022年5月期 本決算の概要

本資料で使用している決算数字は単位未満を四捨五入しており
決算短信とは一部表示が異なりますのでご了解ください

前期比で増収増益,業績予想比でも上振れ

22/5月期

予想 ※2

単位：億円

21/5月期

22/5月期

増減額

増減率

総売上高（旧基準） ※1	692	765	73	10.5%	
売上高（新基準） ※1	-	730	38	5.5%	715(+15)
売上総利益	386	439	54	13.9%	-
売上総利益率（%）	55.7%	60.1%	-	-	-
研究開発費	70	81	12	16.5%	-
売上高比率（%）	10.1%	11.1%	-	-	-
その他販管費	218	246	28	12.6%	-
営業利益	97	112	15	15.0%	100(+12)
経常利益	101	121	20	20.2%	103(+18)
当期純利益	76	123	46	60.5%	110(+13)
※3					
米ドルレート(円)	111	122	+11		122(±0)
ユーロレート(円)	130	137	+7		137(±0)

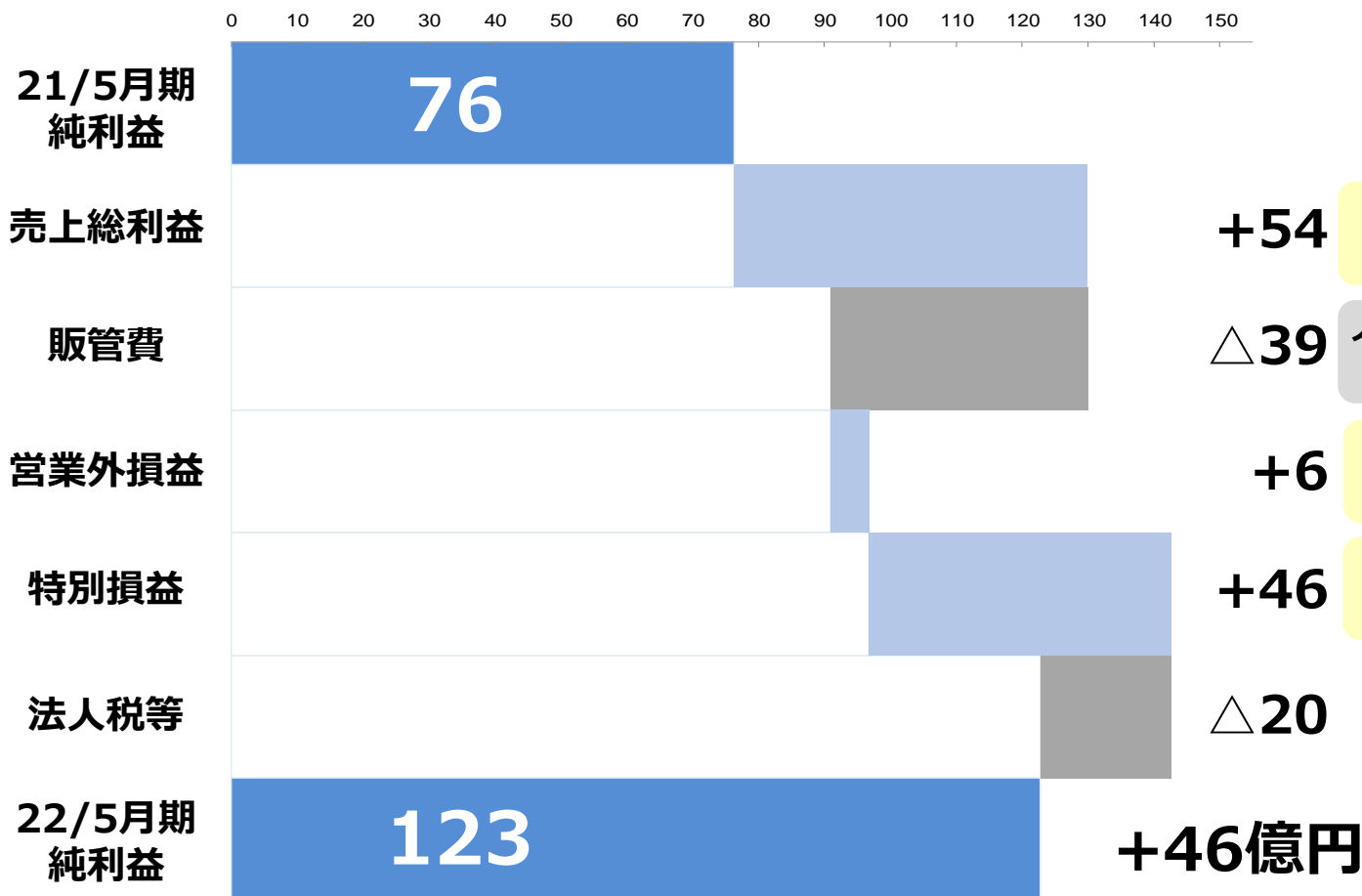
為替影響
+46億円

※1 2022年5月期の期首より「収益認識に関する会計基準」等を適用しております。

※2 2022年4月公表 ※3 海外子会社(3月期)換算レート

増収,固定資産売却益により大幅増益

単位：億円



純利益変動の主要因

- +54** 増収により増加
- △39** 人件費,減価償却費,研究開発費の増加
為替変動により増加
- +6** 為替差損益の改善
- +46** 固定資産売却益
- △20**

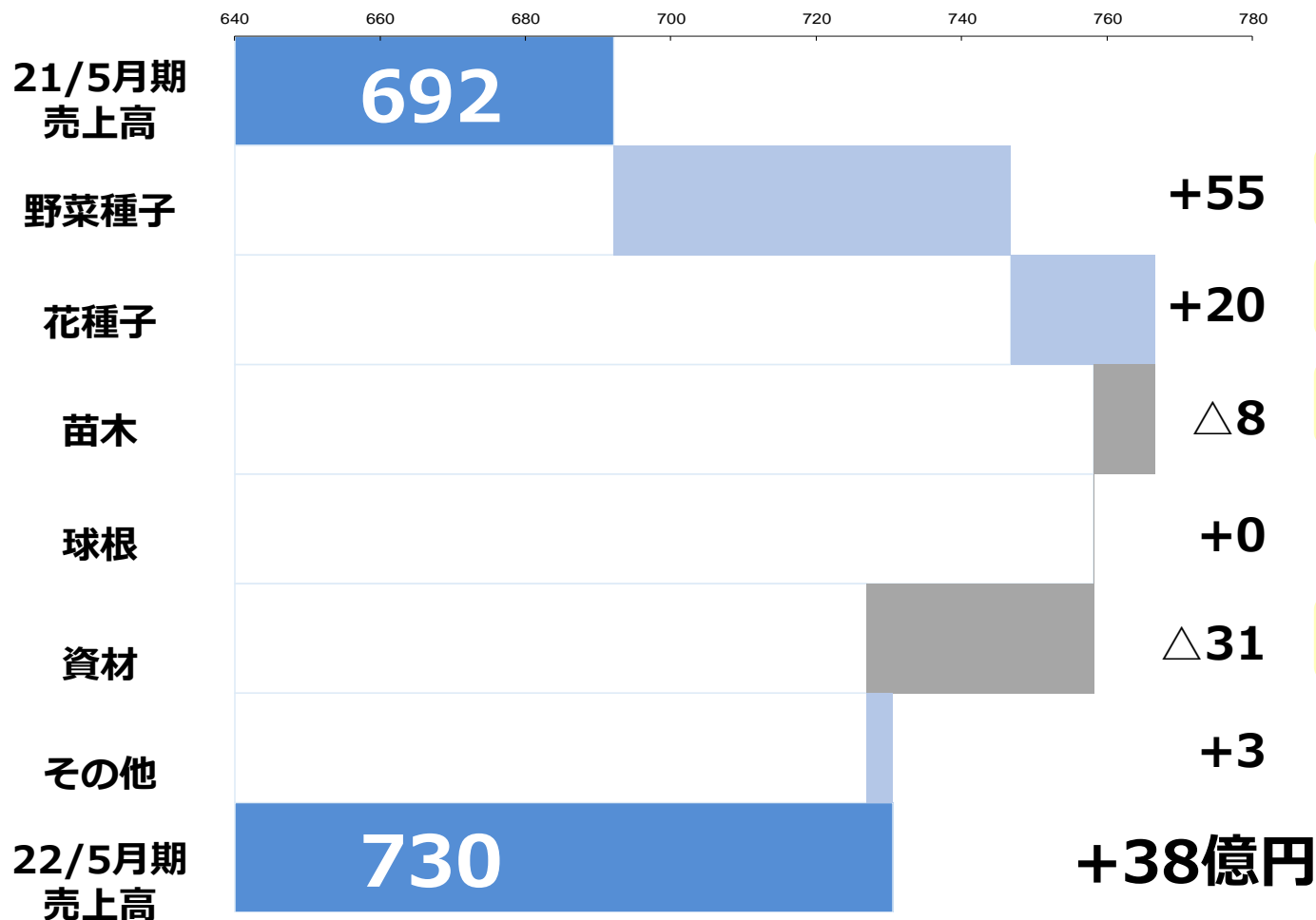
海外卸売が業績をけん引

単位：億円

	売上高				営業利益			
	21/5	22/5	増減	増減率	21/5	22/5	増減	増減率
国内卸売	167	128	△ 39	△23.5%	53	49	△ 4	△6.9%
海外卸売	438	520	83	18.9%	133	163	29	22.0%
小売	58	52	△ 6	△10.9%	1	0	△ 1	△71.8%
その他事業	30	31	1	4.0%	0	1	0	109.7%
小計	692	730	38	5.5%	188	213	25	13.5%
消去	—	—	—	—	△ 91	△ 101	△ 11	—
連結	692	730	38	5.5%	97	112	15	15.0%

野菜種子と花種子が大幅増,資材は新会計基準の適用で減少

単位：億円



売上高変動の主要因

ブロッコリー,ニンジン,ペッパーなどが増加

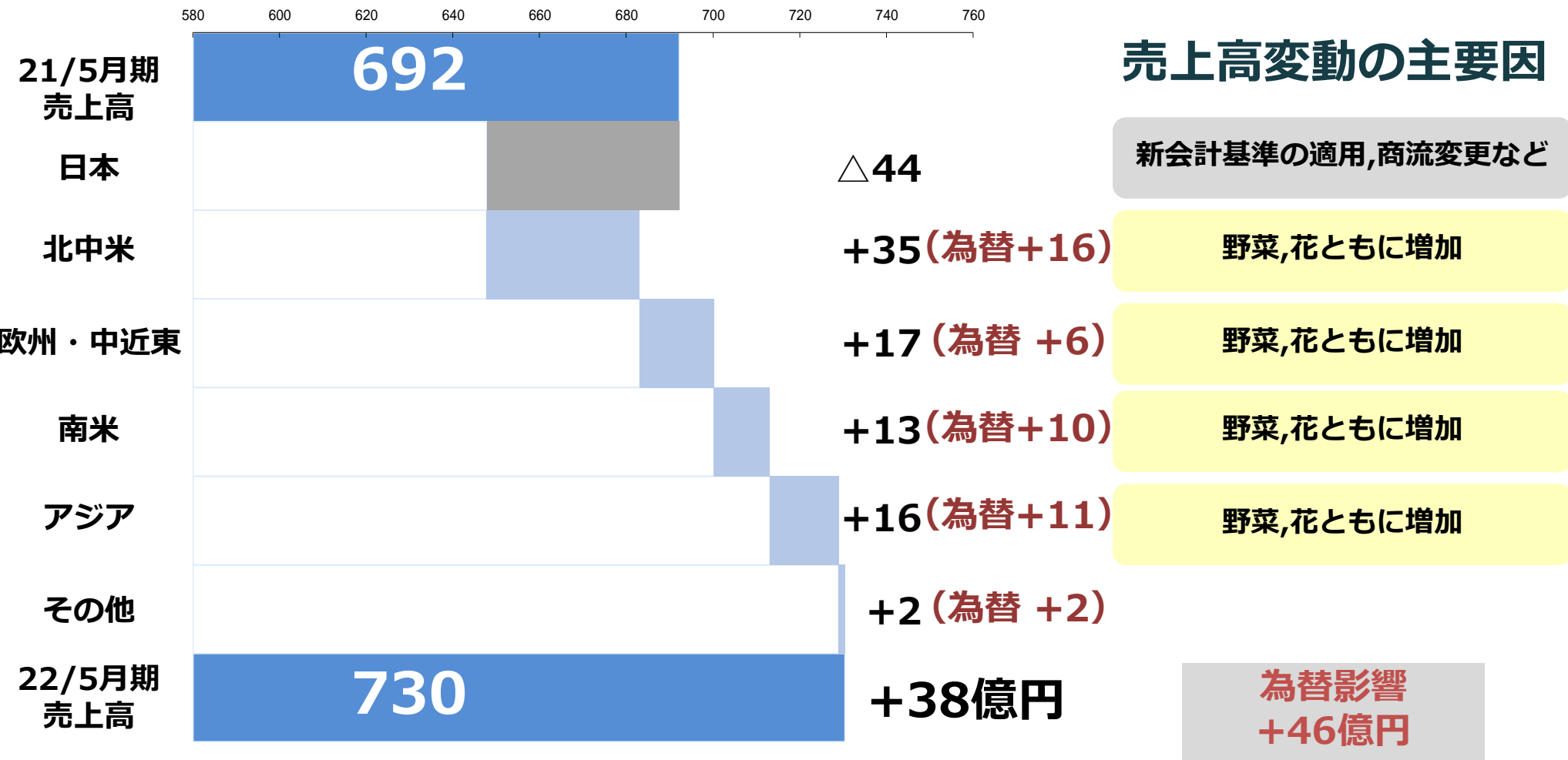
ヒマワリ,トルコギキョウなどが増加

一部商品の取り扱い中止

代理人取引の純額表示による減少

海外全地域で増加

単位：億円



売上高変動の主要因

新会計基準の適用, 商流変更など

野菜, 花ともに増加

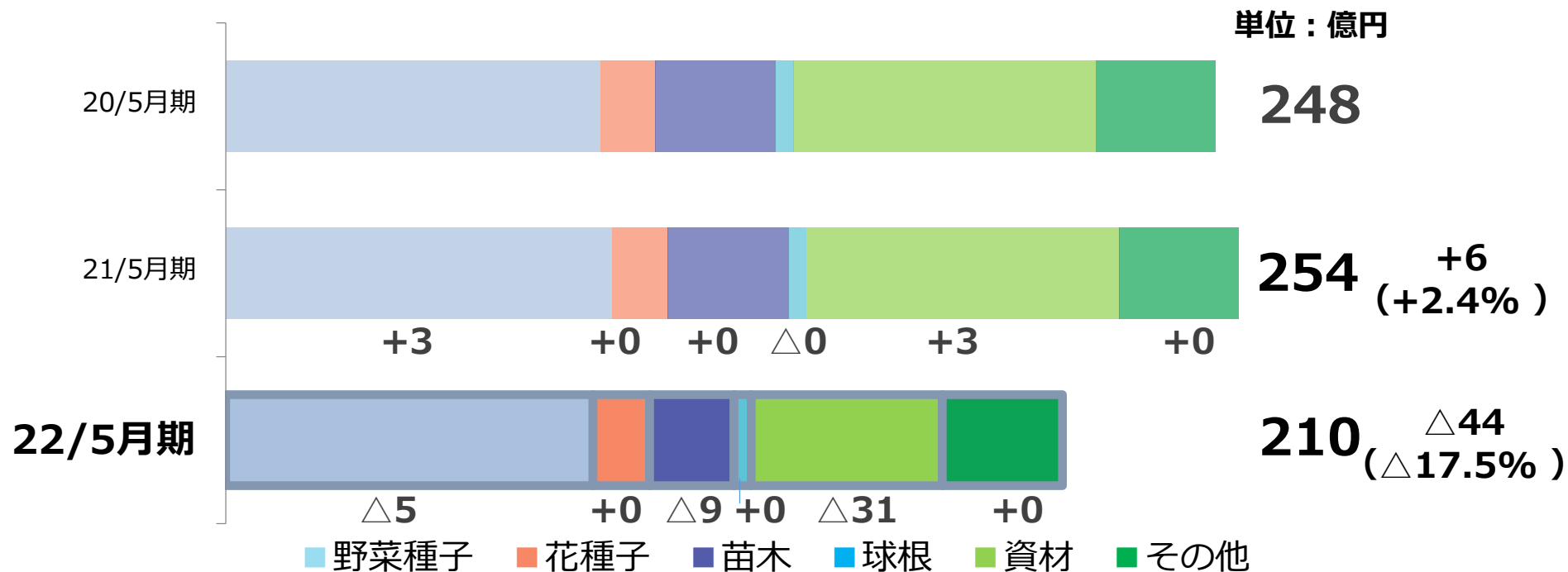
野菜, 花ともに増加

野菜, 花ともに増加

野菜, 花ともに増加

為替影響 +46億円

代理人取引純額表示により資材が大幅減少



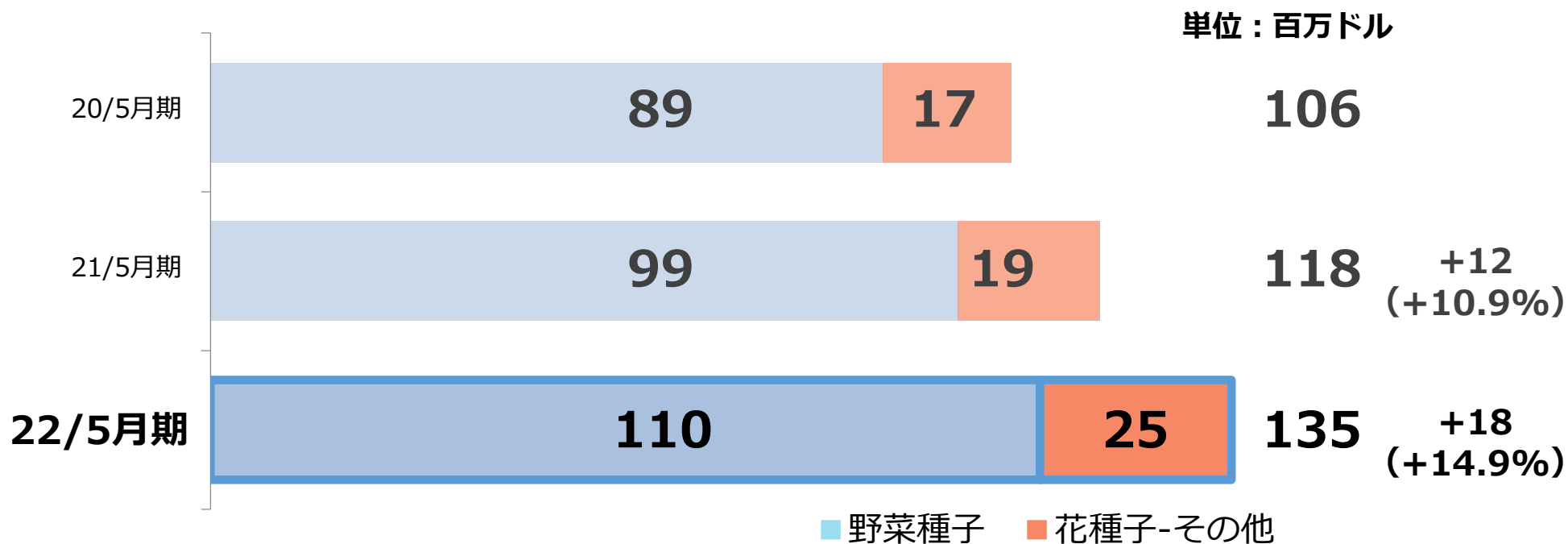
2020/6-2021/5 変動額上位品目

野菜種子：	トマト	+1.3
	ブロッコリー	+0.8
	ネギ	+0.6
花種子：	パンジー	△0.2

2021/6-2022/5 変動額上位品目

野菜種子：	ブロッコリー	+0.8
	トマト	△0.7
	レタス	+0.6
花種子：	パンジー	+0.5

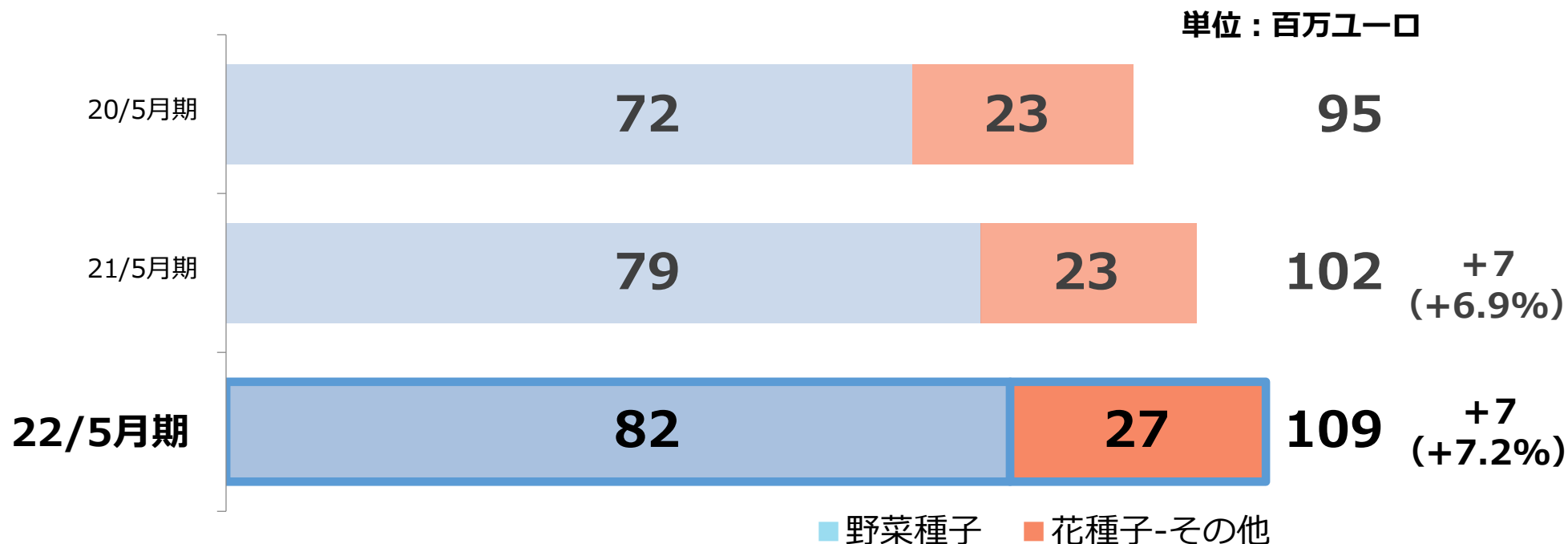
主要品目が好調で野菜,花ともに大幅増収



2020/6-2021/5 変動額上位品目		
野菜種子：	ペッパー	+3.2
	トマト	+2.7
	レタス	+2.4
花種子：	ヒマワリ	+0.4

2021/6-2022/5 変動額上位品目		
野菜種子：	ブロッコリー	+5.1
	ニンジン	+1.6
	トマト	+1.5
花種子：	ヒマワリ	+2.1

野菜,花ともに好調



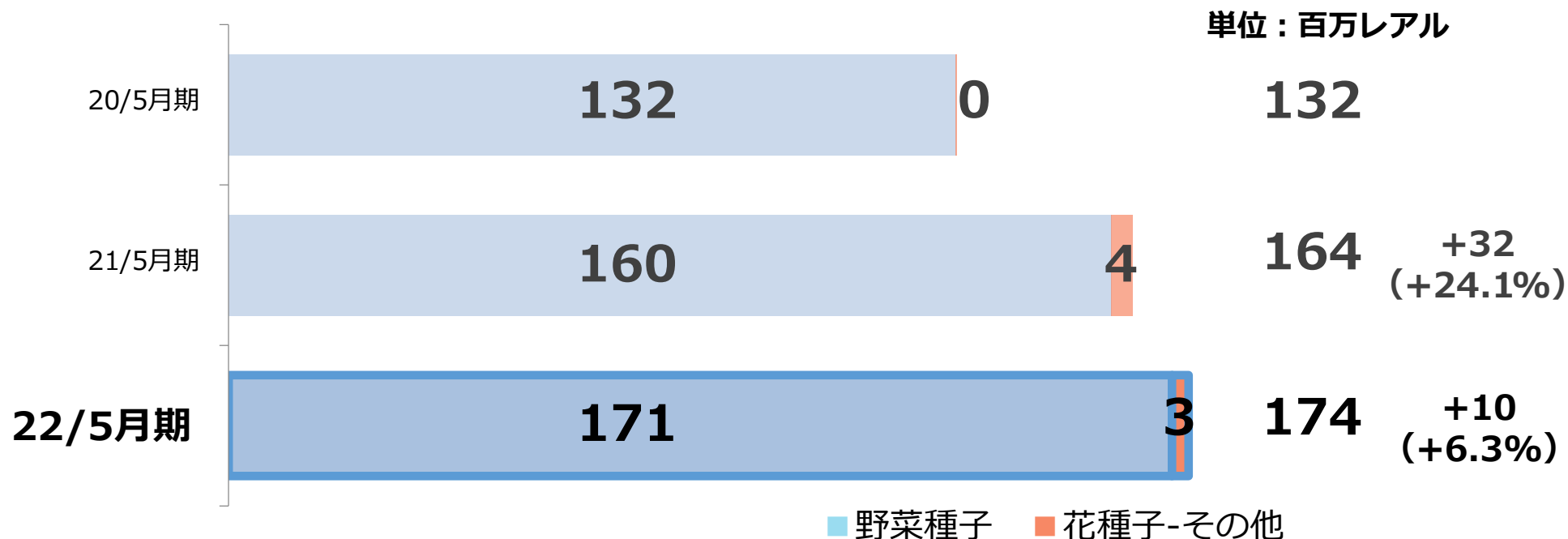
2020/6-2021/5 変動額上位品目

野菜種子：	ブロッコリー	+2.7
	トマト	+1.9
	カボチャ	+1.3
花種子：	トルコギキョウ	△0.3

2021/6-2022/5 変動額上位品目

野菜種子：	ブロッコリー	+1.5
	トマト	+1.5
	ペッパー	+0.9
花種子：	トルコギキョウ	+1.6

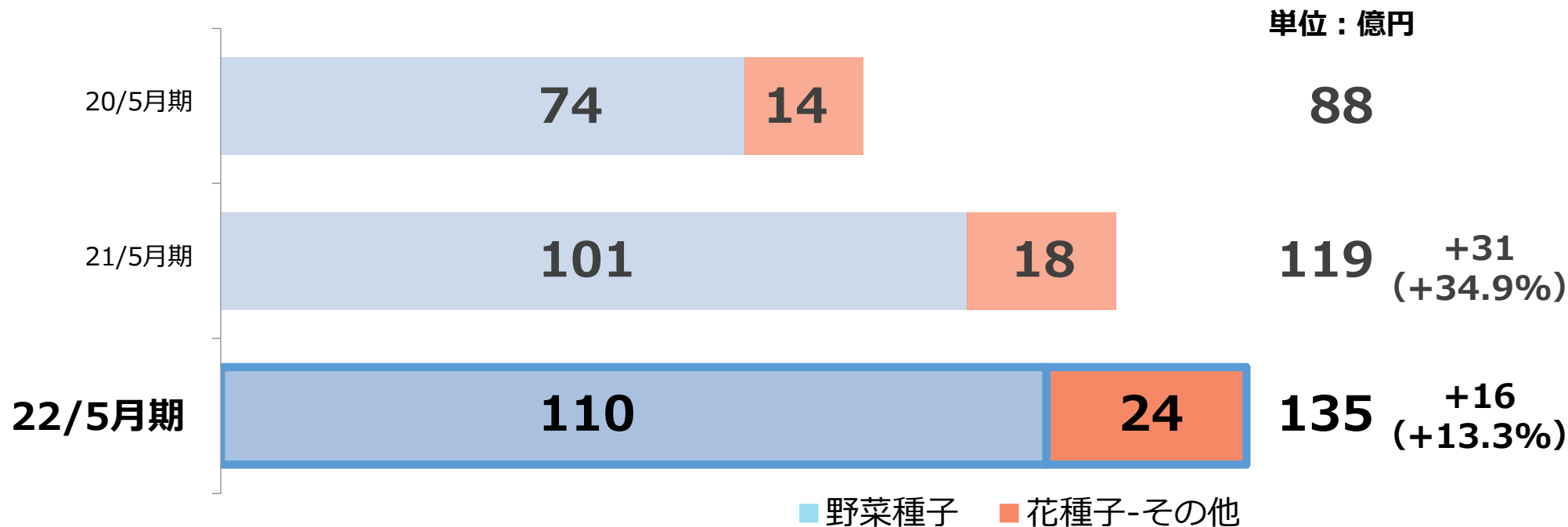
野菜,ヒマワリが引き続き好調



2020/6-2021/5 変動額上位品目		
野菜種子：	ブロッコリー	+6.9
	カボチャ	+6.0
	ペッパー	+4.6
花種子：	ヒマワリ	+0.9

2021/6-2022/5 変動額上位品目		
野菜種子：	カボチャ	+2.9
	メロン	+2.2
	レタス	+2.1
花種子：	ヒマワリ	+1.2

野菜,花ともに好調で大幅増収

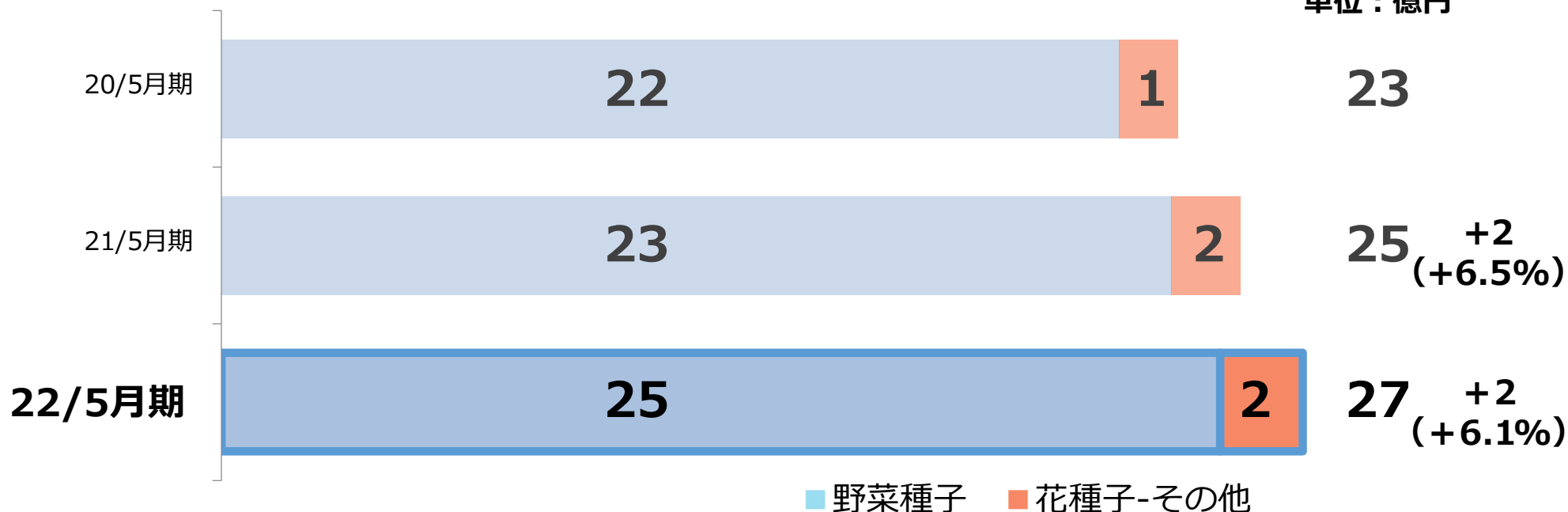


2020/6-2021/5 変動額上位品目		
野菜種子：	ニンジン	+11.2
	ブロッコリー	+9.5
	ペッパー	+2.9
花種子：	トルコギキョウ	+1.7

2021/6-2022/5 変動額上位品目		
野菜種子：	ニンジン	+7.5
	ペッパー	+3.3
	ホウレンソウ	+1.2
花種子：	ヒマワリ	+5.5

野菜種子が増加

単位：億円



2020/6-2021/5 変動額上位品目		
野菜種子：	メロン	△1.0
	キャベツ	+0.8
	タマネギ	+0.5
花種子：	パンジー	△0.2

2021/6-2022/5 変動額上位品目		
野菜種子：	タマネギ	△1.2
	ネギ	+0.9
	カボチャ	+0.8
花種子：	プリムラ	+0.1

為替影響や新基幹システム導入費用により前期比増

単位：億円（内訳は、本社および主要子会社の所在地ベース）

		販管費計	人件費	旅費交通費	減価償却費	研究開発費※
2022年5月	実績	327	172	7	26	81
2021年5月	実績	288	156	4	19	70
前期比増減		39	16	3	6	12
内 訳	うち為替変動による影響額	20	9	0	1	4
	日本	5	△ 2	△ 0	5	3
	北中米	14	5	1	0	2
	欧州・中近東	11	5	1	1	2
	南米	8	4	0	0	2
	その他+連結調整	△ 0	4	0	△ 0	2

※ 研究開発費は、研究活動に関わる経費の合計としており、人件費と減価償却費の一部が重複した数字となっております

Ⅱ 2023年5月期 通期予想および配当政策

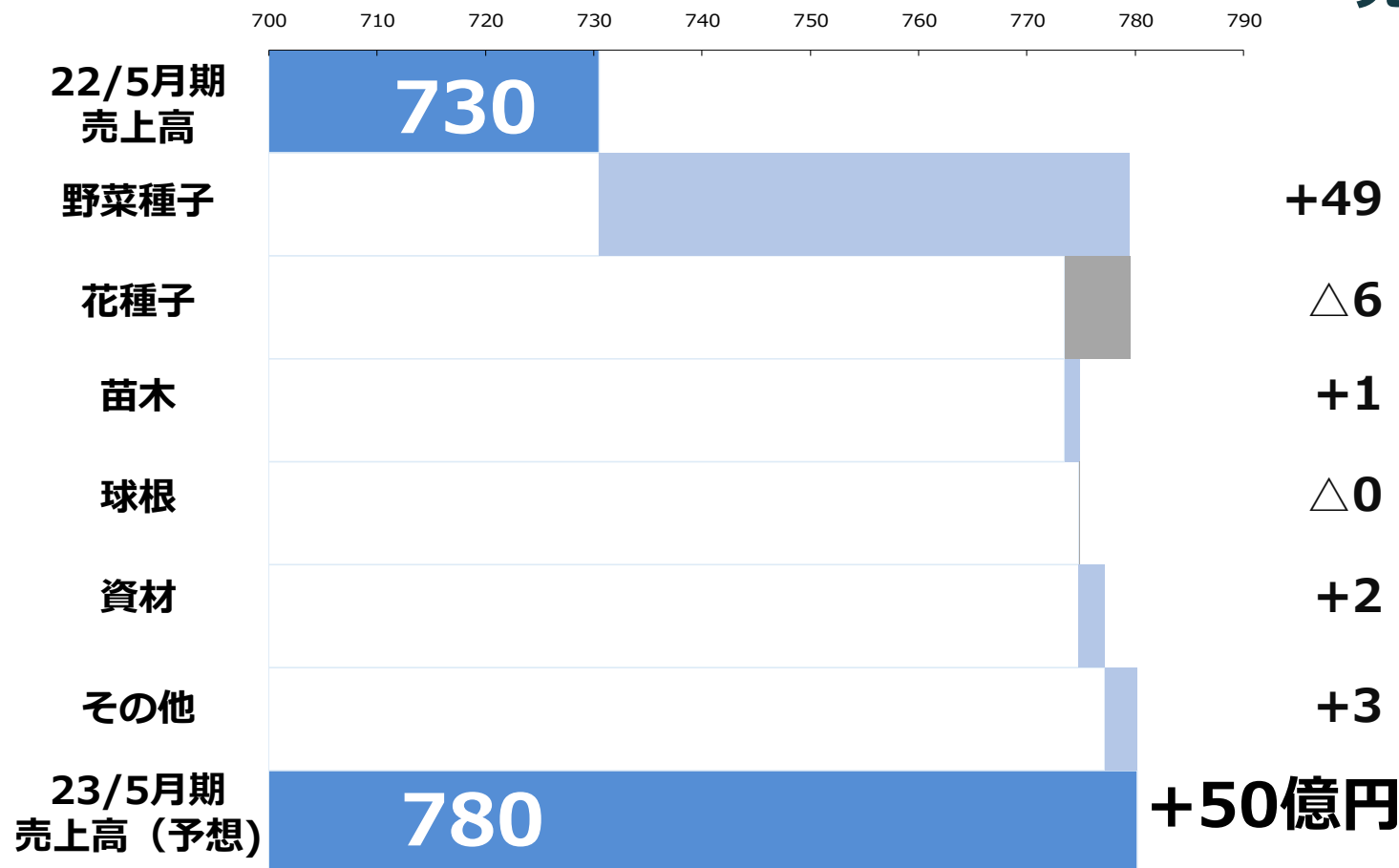
売上高と営業利益は増加も、経常利益と当期純利益は減益を予想

単位：億円	21/5月期	22/5月期	予想	増減額	増減率
総売上高（旧基準）	692			-	-
売上高（新基準）	-	730	780	50	6.8%
売上総利益	386	439	472	33	7.5%
売上総利益率（%）	55.7%	60.1%	60.6%	-	-
研究開発費	70	81	87	5	6.4%
売上高比率（%）	10.1%	11.1%	11.8%	-	-
その他販管費	218	246	272	26	10.6%
営業利益	97	112	113	1	1.1%
経常利益	101	121	118	△3	△2.6%
当期純利益	76	123	85	△38	△30.6%
米ドルレート(円)	111	122	133	為替の感応度の試算※（百万円）	
ユーロレート(円)	130	137	140	米ドル	80
				ユーロ	12

※1円の為替変動による年間の営業利益の影響額

ほぼ全ての品目で増加

単位：億円



売上高変動の主要因

引き続き安定した推移を予想

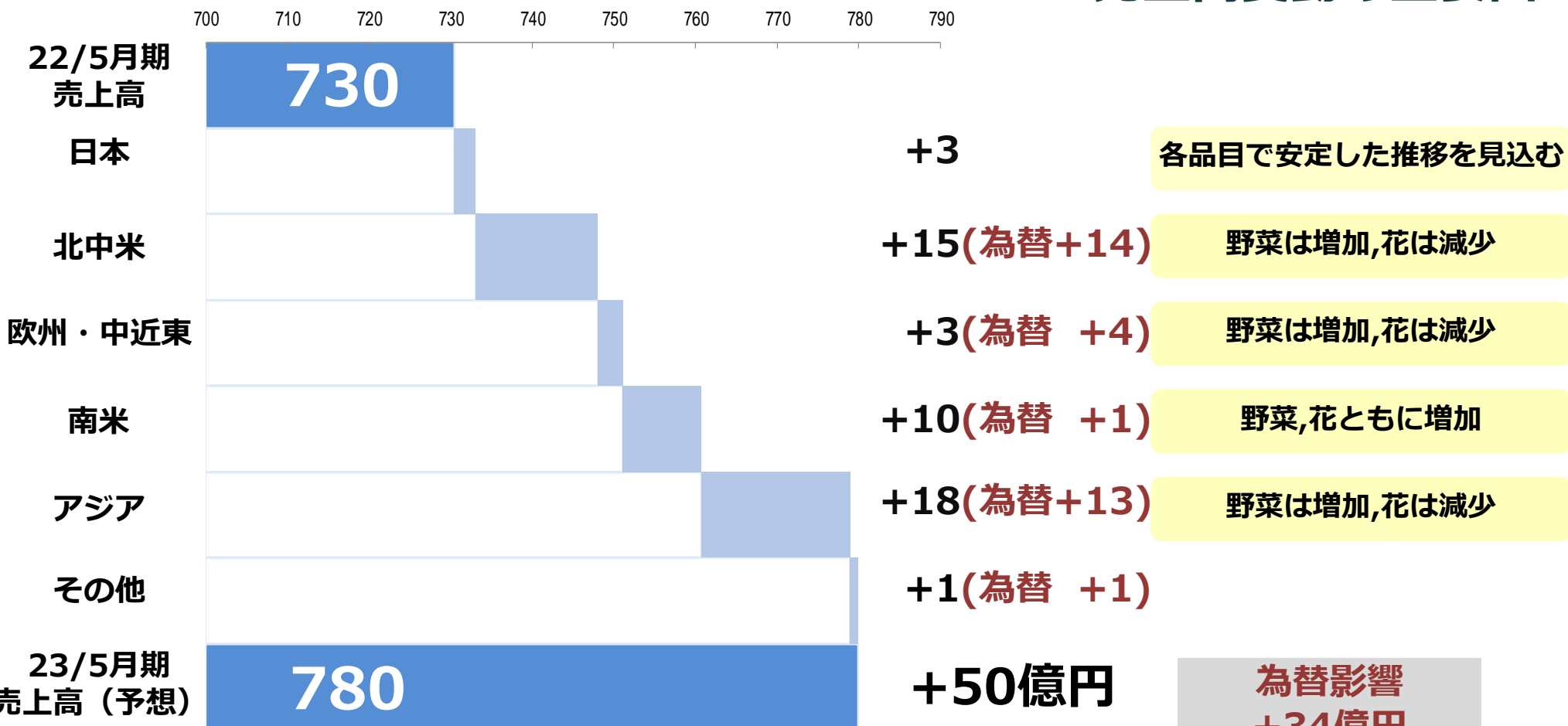
施設園芸用種子の需要減とヒマワリの反動減を見込む

取扱高の増加
価格高騰の影響

海外売上を増加を予想

単位：億円

売上高変動の主要因



減価償却費, 研究開発費などの増加を見込む

単位：億円

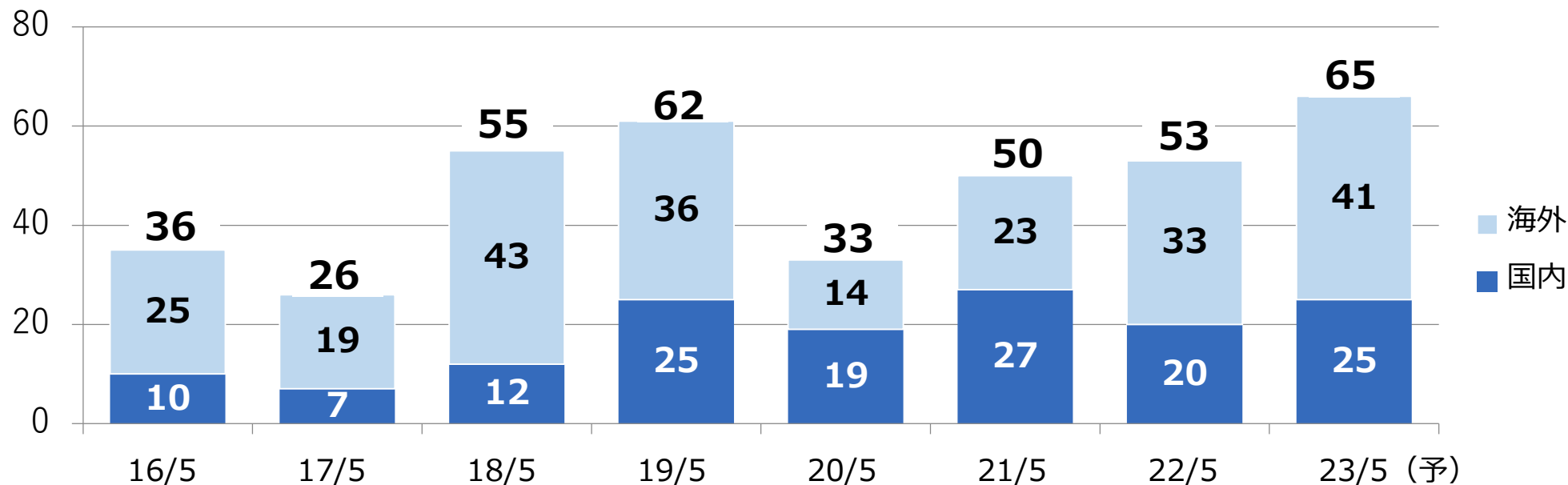
(内訳は、本社および主要子会社の所在地ベース)

		販管費計	人件費	旅費交通費	減価償却費	研究開発費※
2023年5月	予想	359	184	14	31	87
2022年5月	実績	327	172	7	26	81
前期比増減		32	12	7	5	5
内 訳	うち為替変動による影響額	12	5	0	1	3
	日本	15	△ 1	5	2	6
	北中米	14	6	1	1	3
	欧州・中近東	11	4	1	2	△ 0
	南米	4	2	0	1	△ 0
	その他+連結調整	△ 12	0	0	0	△ 4

※ 研究開発費は、研究活動に関わる経費の合計としており、人件費と減価償却費の一部が重複した数字となっております

設備投資総額は増加

単位：億円



* 2016/5-2022/5は各決算期における設備投資額実績（含む無形固定資産の取得）
2023/5は、当期以降になるであろう投資額も含む

2022年5月期の期末配当は27円（年間ベースでは45円） 2023年5月期の配当予想は年間50円を予定

当社は、株主への利益還元を経営の重要課題と考え、安定的、継続的な利益配分を行うことを基本方針としております

① 2022年5月期の期末配当案は27円（年間ベースでは45円）

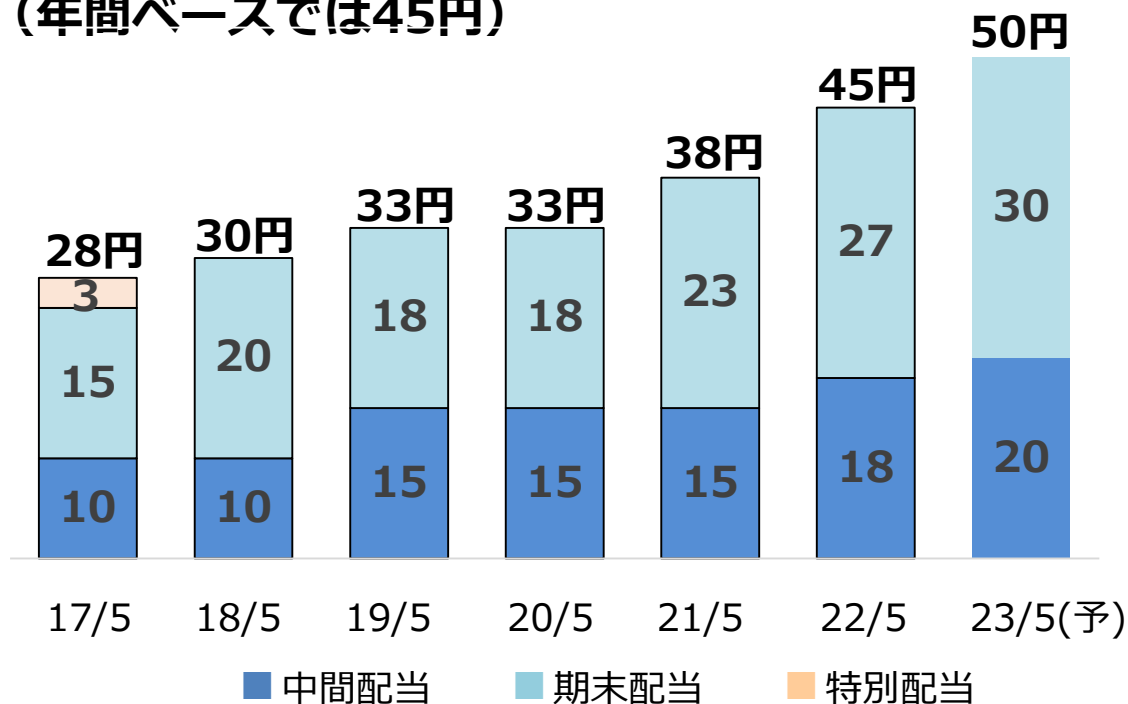
（予想比 +7円）

② 2023年5月期は年50円を予定

「中間配当」 20円

「期末配当」 30円

*金額は1株あたり



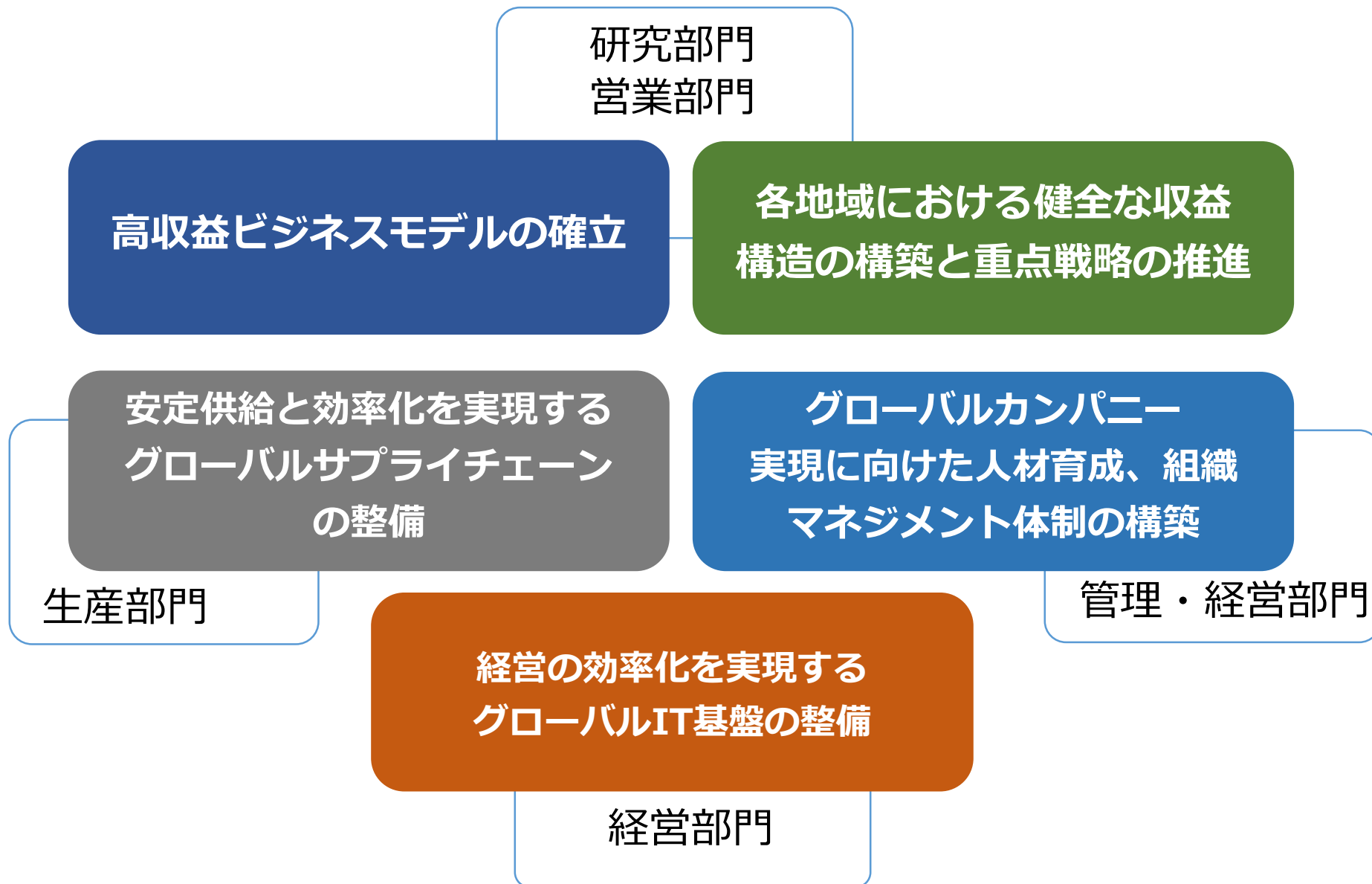
Ⅲ グローバルな成長に向けた取り組み

世界戦略品目 ブロッコリー



- 1. 当社グループの成長戦略**
- 2. 野菜の基本戦略**
- 3. ブロッコリーの概要と消費動向**
- 4. ブロッコリーの戦略と施策、展望**

1 当社グループの成長戦略



1. 当社グループの成長戦略
2. 野菜の基本戦略
3. ブロッコリーの概要と消費動向
4. ブロッコリーの戦略と施策、展望

世界の野菜種子市場 約90億US\$(当社推定)

おもな野菜の種類 果菜類が市場全体の40～50%程度

葉菜類

葉などを食べる野菜
(ブロッコリー、キャベツ、
レタスなど)



根菜類

根を食べる野菜
(ニンジン、ダイコン、
ビートなど)



果菜類

果実を食べる野菜
(トマト、スイートペッパー、
ホットペッパー、カボチャ、
スイートコーンなど)



世界人口増に伴い様々な栄養を摂取できる野菜の需要増が見込まれる

高品質な種子の安定的な供給が不可欠
(経済動向の影響を受けづらく成長性が高い市場)

**トップ品目は
高シェアを維持**

ブロッコリー、ホウレンソウ、
レタス、スイートコーン

**収益の柱となる
新しい品目づくり**

トマト、ペッパー、カボチャ

地域密着の研究体制でニーズを的確にカバー

地域文化に根差し、多様化したニーズに対応
グローバルな展開により幅広い環境に耐えうる品種を育成

1. 当社グループの成長戦略
2. 野菜の基本戦略
3. **ブロッコリーの概要と消費動向**
4. **ブロッコリーの戦略と施策、展望**

歴史 BC600年-1920年 黎明期



ローマ時代から利用されていたが地域限定的、1920年代にアメリカで拡大

約2000年にわたり「マイナーな地方野菜」

3 ブロッコリーの概要と消費動向

歴史 1920年 - 1980年 発展期

1969年発表
グリーンデューク

固定種

- 可食部が小さい
- 収穫期がふぞろいで作業性低
- 収量性低

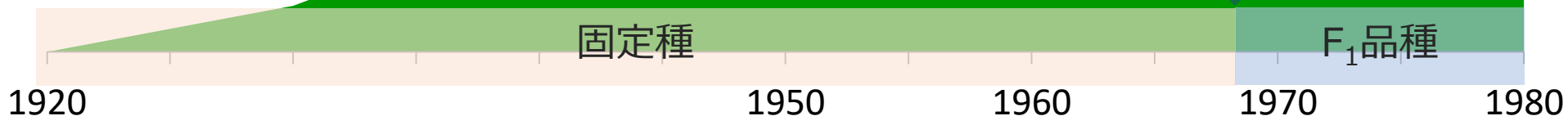
F1品種

- 可食部が大きい
- そろいがよい
- 品質がよい

**商業生産、
安定供給に向く**



アメリカの作付け面積
推移イメージ
(当社資料より作成)



F1化と種子の安定供給により米国で作付け面積急増

20世紀中盤以降、アメリカを代表する野菜に

3 ブロッコリーの概要と消費動向

歴史 1980年－現在 普及・拡大期

青果の氷詰め、冷蔵での輸送



冷凍加工



冷蔵・冷凍技術の発達により消費意欲増、生産国が世界的に拡大

メキシコ



スペイン

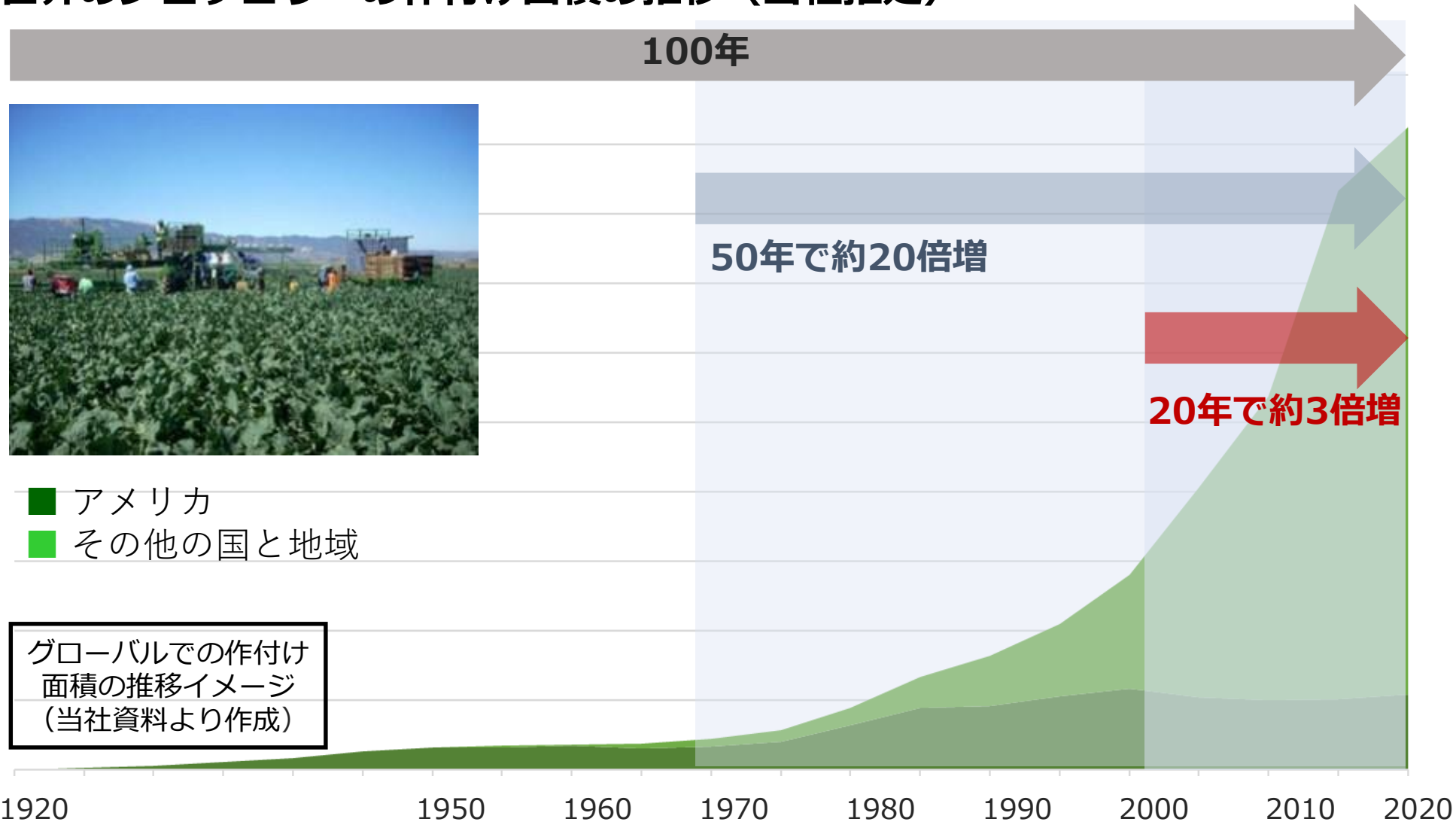


中国



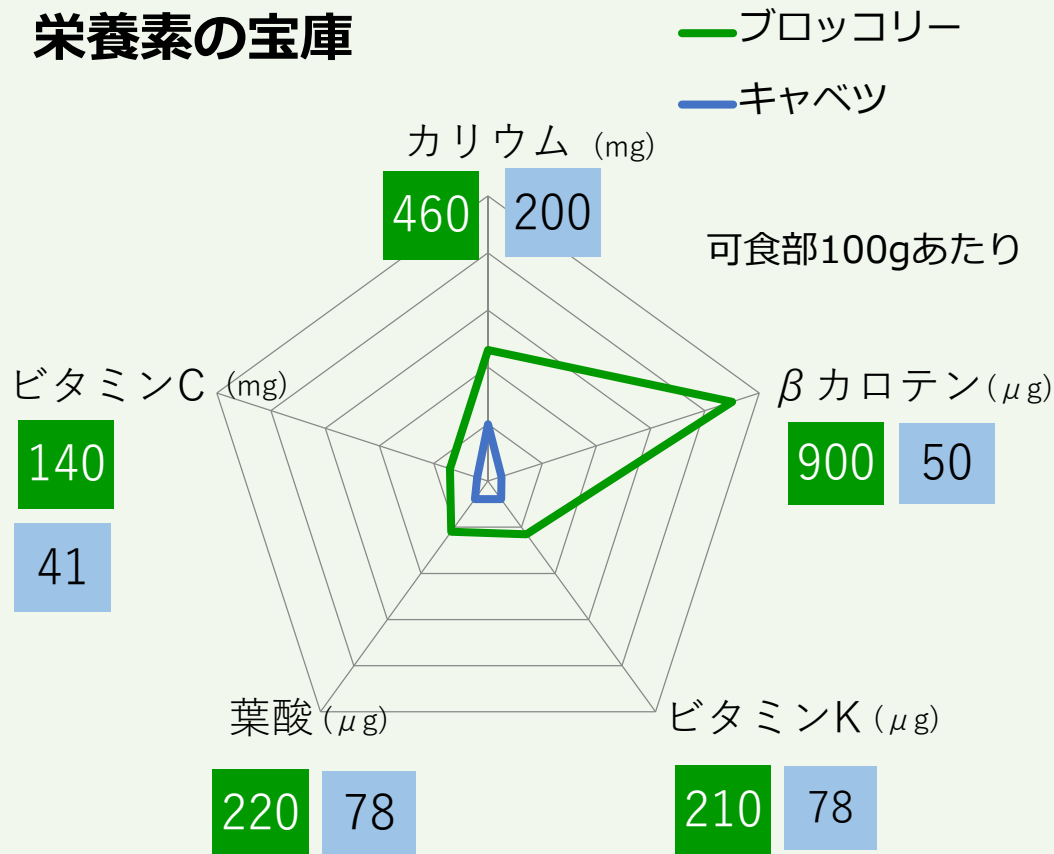
20世紀終盤、21世紀、世界的な野菜に

世界のブロッコリーの作付け面積の推移（当社推定）



消費量増加の背景① 高い栄養価、メディアや専門家も注目

栄養素の宝庫



ブロッコリーとキャベツの栄養価の比較
日本食品標準成分表2020年版（八訂）より抜粋

高まる関心、アスリートも食事に取り入れ



©1992 Y.MARINOS

横浜F・マリノス HP
フードサポーターより



第4回：チキンとブロッコリーの豆乳グラタン（遠藤 深太選手②）



トレーニング時や体調管理に有用なビタミン類を豊富に含んでおり、合宿や遠征先でもブロッコリーはサラダーバーに置かれ積極的に摂取されています。栄養価や利用方法についてTV番組、ウェブサイト、SNSなどでも取り上げられ、認知が高まりつつあります

消費量増加の背景② 抗がん作用などの高い機能性

ブロッコリーに多く含まれる スルフォラファンの機能性

糖尿病
の抑制

抗がん作用

肝機能の
改善

抗ウイルス
作用

がん予防での健康効果が確認された後、解毒作用のメカニズムなどが解明され、領域が拡大。その他の成人病への効果も認められるなど、現在も研究が進んでいる

> Proc Natl Acad Sci U S A. 1992 Mar 15;89(6):2399-403. doi: 10.1073/pnas.89.6.2399.

A major inducer of anticarcinogenic protective enzymes from broccoli: isolation and elucidation of structure

Y Zhang ¹, P Talalay, C G Cho, G H Posner

Affiliations + expand

PMID: 1549603 PMCID: PMC48665 DOI: 10.1073/pnas.89.6.2399

[Free PMC article](#)

Abstract

Consumption of vegetables, especially crucifers, reduces the risk of developing cancer. Although the mechanisms of this protection are unclear, feeding of vegetables induces enzymes of xenobiotic metabolism and thereby accelerates the metabolic disposal of xenobiotics. Induction of phase II detoxication enzymes, such as quinone reductase [NAD(P)H:(quinone-acceptor) oxidoreductase, EC 1.6.99.2] and glutathione S-transferases (EC 2.5.1.18) in rodent tissues affords protection against carcinogens and other toxic electrophiles. To determine whether enzyme induction is responsible for the protective properties of vegetables in humans requires isolation of enzyme inducers from these

「National Library of Medicine」より引用
(<https://www.ncbi.nlm.nih.gov/>)

1992年に米国ジョーンズ・ホプキンス大学のタラレー博士らが、がん予防に効果があることを発見した

消費量増加の背景③ 消費者ニーズに対応できる柔軟性

花蕾・茎の利用



一般的な出荷形態。花蕾だけでなく茎も利用することができる。調整の手間が少ない

葉の利用

葉ブロッコリー

現在、試作として展開し、市場性を見極め中



花蕾の利用

フローレット (冷凍・青果)



クラウンをバラバラにした小房。解凍しすぐに食べられる。近年は青果も増加

ブロッコリー ライス (冷凍)

房や茎を細かくしライスの代わりに食べる。糖質制限など健康ブームを背景に、近年普及しはじめた



使い勝手がよい、茎も食べることができ、捨てるところが少ない

消費量増加の背景④ 食味のよさと世界の食文化への高い親和性



生食



ブロッコリーのスープ



ブロッコリーのパスタ



イカとブロッコリーの炒め物

ステーキの
付け合わせ



ブロッコリーのサラダ



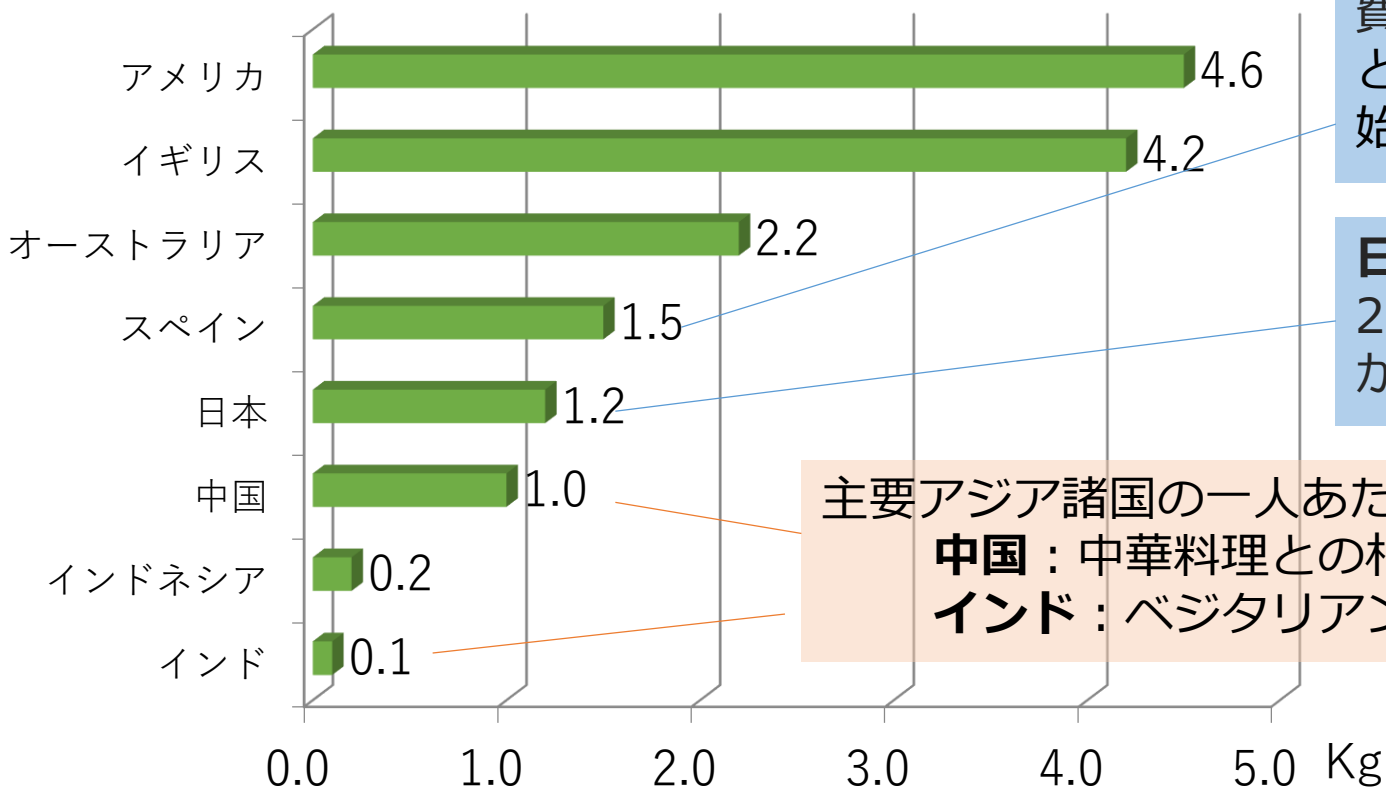
ブロッコリーチャーハン



食べやすい野菜に求められる性質を
兼ねそろえており消費が伸びるポテンシャルが高い

世界各国での消費量の推移

国民一人当たりの推定年間消費量(kg) 2020年 当社推計



スペイン：2010年代に急増、約10年で一人あたりの消費量が**8倍増**に。イギリスなどへの輸出国として栽培を開始したが、自国の消費が増加

日本：直近10年（2009-2019）で流通量が17.7万tから22.3万tの**1.3倍増**に

主要アジア諸国の一人あたりの消費量は1kg以下
中国：中華料理との相性はよく消費拡大中
インド：ベジタリアンが多く潜在需要は高い

人口の多いアジア諸国で消費量が低い。アフリカ諸国もまだ普及していない

今後も作付け面積・消費量は増加していくと予想

1. 当社グループの成長戦略
2. 野菜の基本戦略
3. ブロッコリーの概要と消費動向
4. ブロッコリーの戦略と施策、展望

【戦略】

消費を拡大させ種子需要（市場のパイ）を増やす
ニーズに応えるための研究開発と種子の安定供給によりシェアを維持

【施策1】

研究開発と種子生産の強化

【施策2】

グローバルでの消費拡大

【施策3】

グローバルでの
「ワンチーム」展開

1 研究開発と種子生産の強化

① 研究開発

当社の強み

日本を中心にグローバルな研究ネットワークを構築
国内2拠点の手厚い体制で高い競争優位性を発揮

▶ 画期的な新品種を継続的に作出可能

気候変動への対応 → 高い耐暑性



サマードーム



SK9-099

日本国内の厳しい暑さの中で選抜、世界的に高い競争力を発揮

多様なニーズへの対応 → 各国での適応性、収量性、作業性、加工特性



パルテノン



肥大性が極めて高く、花蕾品質も優れた欧州市場での代表的品種

強みを最大限に生かし、ニーズに合った品種開発を加速

1 研究開発と種子生産の強化

②種子生産

当社の強み

1960年代から採種技術・ノウハウを蓄積し、経験が豊富

▶ 地球規模での種子の安定生産を実現

【施策】

- ・ 北半球/南半球によるリスク分散
- ・ 新しい採種地の継続的な開拓
- ・ ノウハウの蓄積と継承



ブロッコリーのF₁種子の採種風景。露地での採種となるため環境変化への対応が重要



高品質種子の安定生産・供給を実現へ

2 グローバルでの消費拡大

当社の強み

当社は60年来、市場を育んできたリーディングカンパニー
特性を熟知し、グローバルな潜在ニーズも把握

▶ 常に先手をとった
戦略の展開が可能

①消費拡大イベント「ブロッコリー カンファレンス」の開催



市場関係者、輸出入業者、生産者、メディアなどを招待し、青果物マーケティング、消費者動向のパネルディスカッション、利用方法を伝えるクッキングショーなど実施

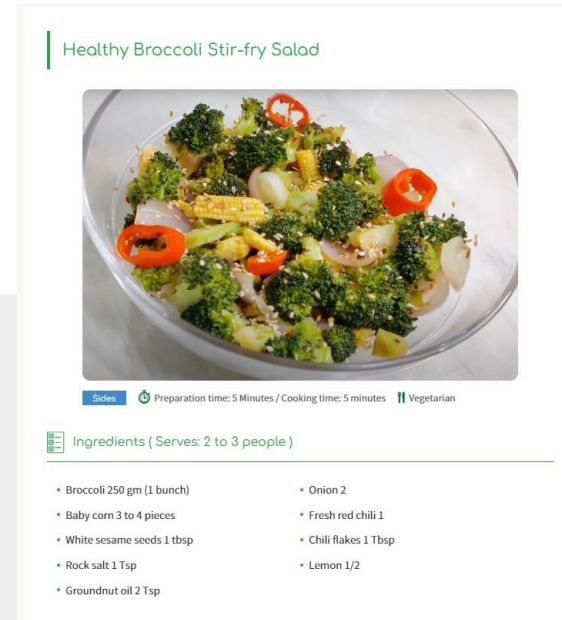
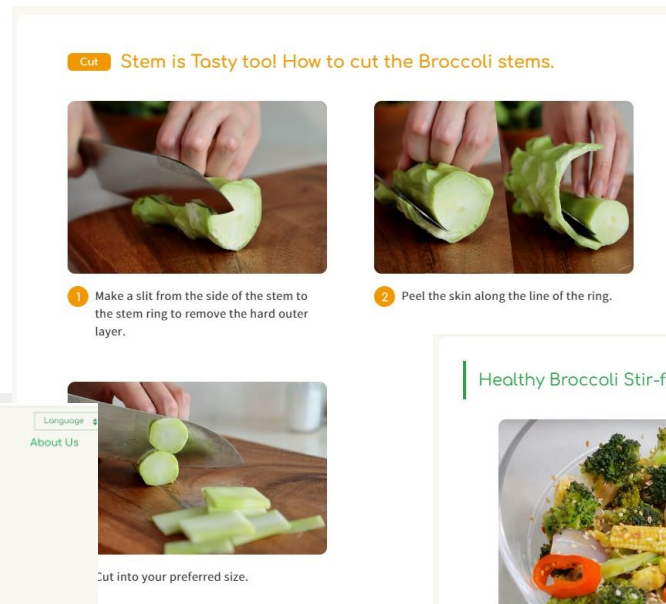
潜在的な消費需要を喚起、スペインは一大消費国に

人口が多く消費の増加が見込まれるアジアなどで実施検討

2 グローバルでの消費拡大

②情報発信の強化、栄養価や機能性周知

グローバル総合ブロッコリーサイト
「Broccoli Lovers」 (2022年6月)



栄養価や機能性に関する研究成果、レシピや調理方法などまだ食べたことのない方に訴求するコンテンツを満載

ブロッコリー関連の情報を集約、生産者、消費者の興味を喚起

2 グローバルでの消費拡大

②情報発信の強化、栄養価や機能性周知

日本国内向けブロッコリー消費拡大サイト
「ブロッコリー大好き」(2022年5月)



TOPICS



URL : <https://www.sakataseed.co.jp/special/broccoli/>

各地域の食文化に対応した ローカルでの情報発信も活発化



3 グローバルでの「ワンチーム」展開



研究

各国のニーズにあう
高品質な品種の開発

サプライチェーン

高品質種子の安定供給

営業

商品開発と拡販

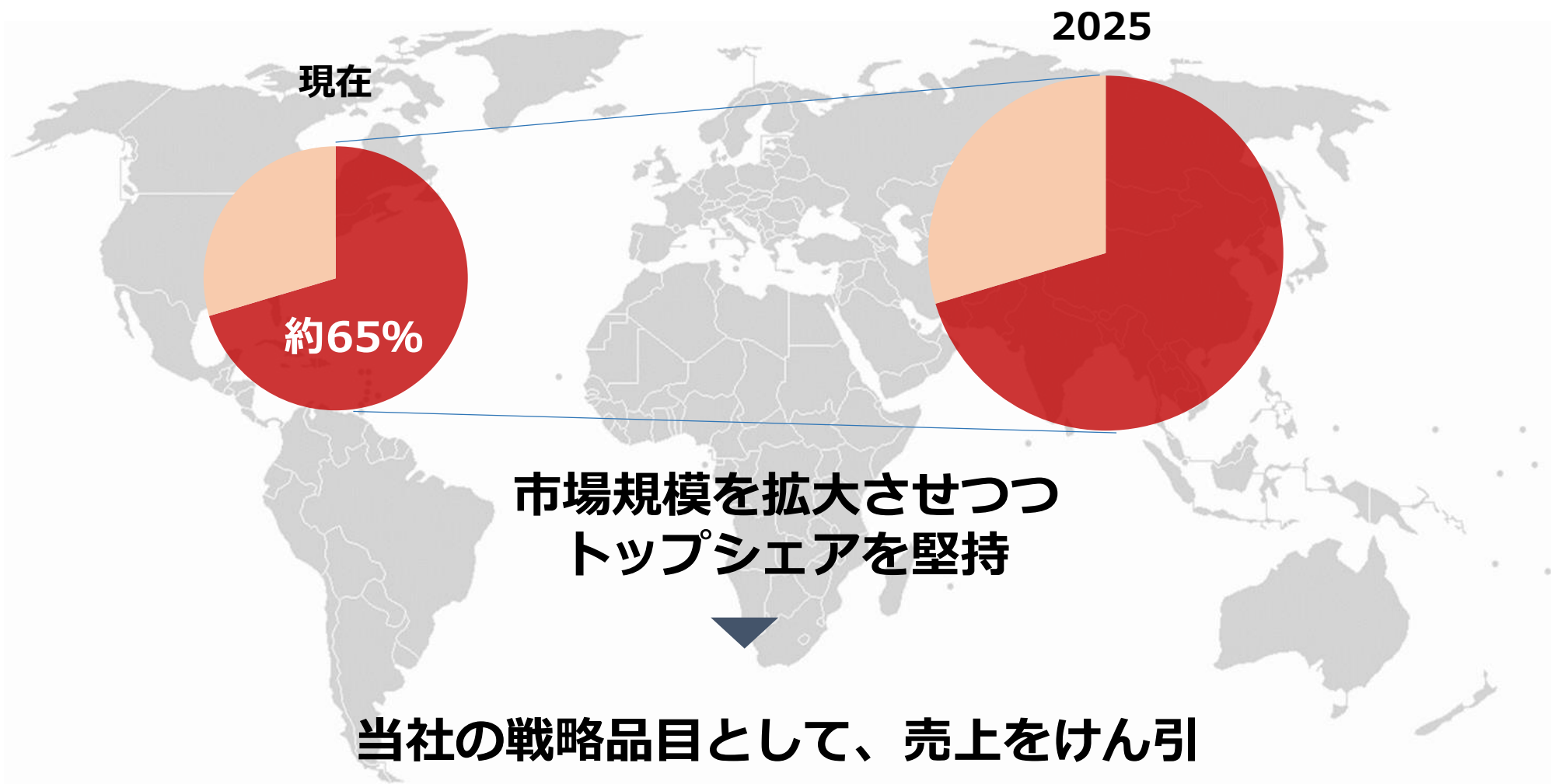


部門・地域横断の多様性あるブロッコリーチーム

機能と地域を包括的にまとめた「ワンチーム」での運営

さらなるコミュニケーションの活性化、チーム力で施策を推進

ブロッコリー市場と当社シェアの展望

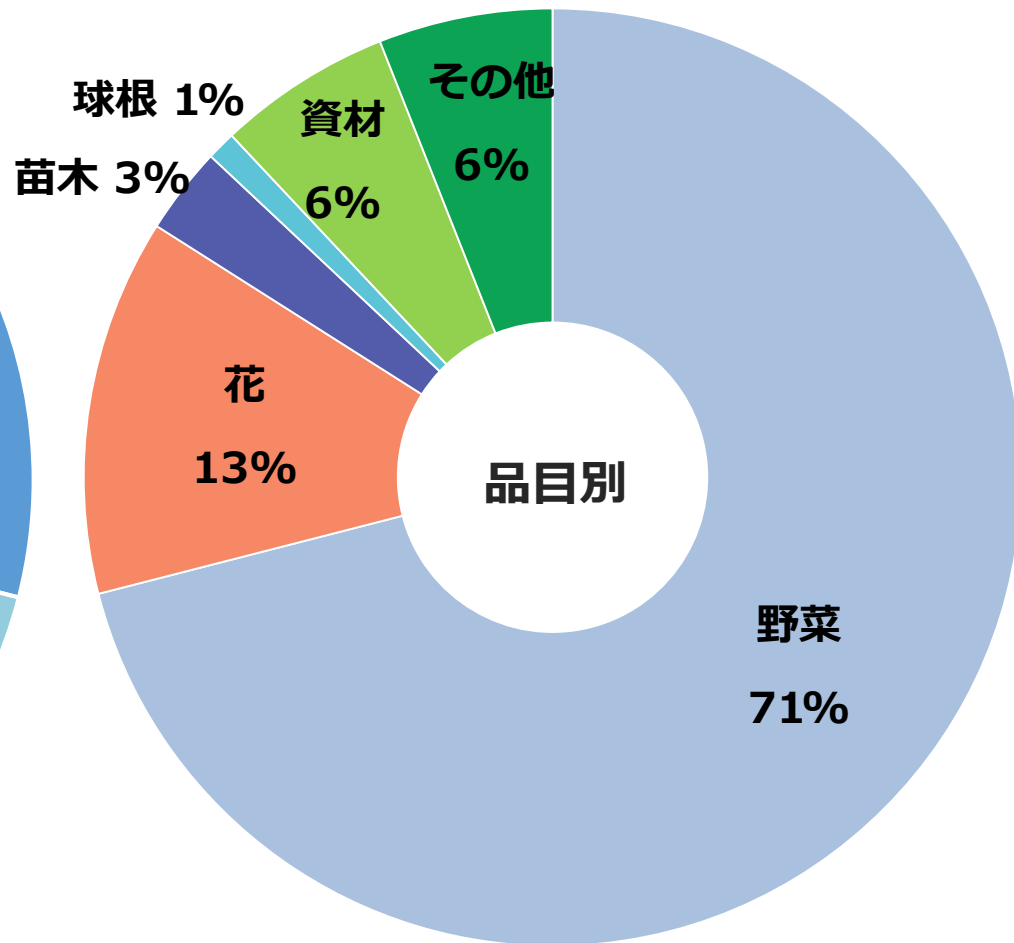
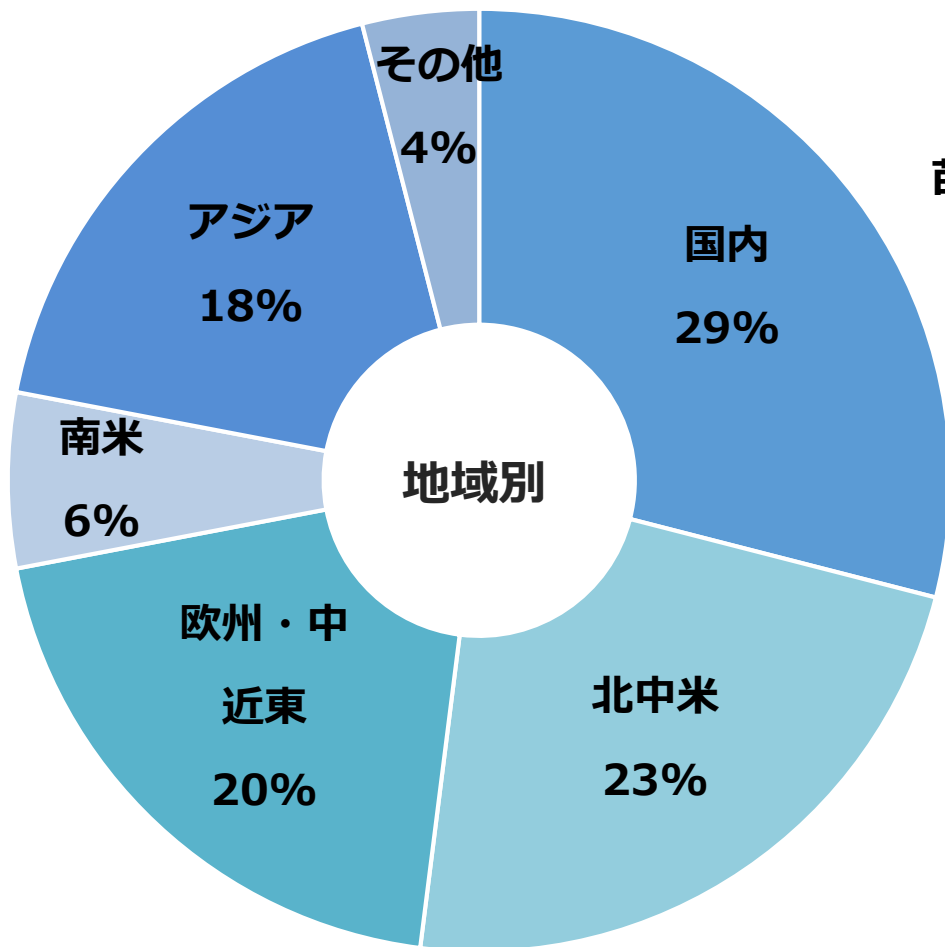




「花は心の栄養、野菜は体の栄養」

環境と社会、農園芸の持続的な発展を目指します

IV 2022年5月期 通期 資料集



品目別地域別売上高（内部取引消去後）の前期比増減

単位：億円

	野菜	花	苗木	球根	資材	その他	合計
北中米	24.9	6.7	0.0	—	△ 0.6	4.3	35.3
欧州・中近東	9.8	5.8	—	—	—	1.5	17.1
南米	13.7	0.6	—	—	—	△ 1.4	12.9
アジア	9.7	6.6	0.8	0.1	0.0	△ 1.3	15.8
その他地域	1.2	0.1	—	—	—	0.3	1.5
海外小計	59.3	19.8	0.8	—	△ 0.6	3.4	82.6
国内小計	△ 4.7	0.1	△ 9.3	0.0	△ 30.6	0.1	△ 44.3
合計	54.5	19.9	△ 8.5	0.1	△ 31.2	3.5	38.3

海外売上高（販売先所在地域別）

(単位未満四捨五入)	第1四半期	前期比	増減率(%)	第2四半期	前期比	増減率(%)	第3四半期	前期比	増減率(%)	第4四半期	前期比	増減率(%)	累計	前期比	増減率(%)
北中米(1,000US\$)															
North&Central															
America	20,242	2,626	14.9	34,241	6,149	21.9	37,316	4,524	13.8	43,588	4,278	10.9	135,387	17,578	14.9
欧州・中近東															
(1,000EUR)															
Europe&Middle East	27,918	3,859	16.0	25,340	1,738	7.4	23,977	651	2.8	31,635	1,055	3.4	108,869	7,303	7.2
南米(1,000BRL)															
South America	42,614	4,076	10.6	41,217	△ 828	△ 2.0	44,273	3,500	8.6	46,173	3,610	8.5	174,278	10,359	6.3
アジア(100万円)															
Asia	2,863	220	8.3	4,102	764	22.9	2,513	330	15.1	3,986	266	7.2	13,465	1,581	13.3
うち韓国(100万WON)															
Korea included Asia	7,359	602	8.9	6,365	△ 325	△ 4.9	4,554	365	8.7	8,449	1,752	26.2	26,727	2,393	9.8
うちインド(100万INR)															
India included Asia	302	63	26.1	374	22	6.3	187	△ 7	△ 3.6	110	45	68.2	974	122	14.4
その他(100万円)															
(アフリカ・オセアニア)															
Others (Africa, Oceania)	518	39	8.1	662	△ 6	△ 1.0	689	52	8.2	786	68	9.5	2,655	153	6.1

本プレゼンテーション資料には、株式会社サカタのタネの業績、戦略、事業計画などに関する将来的予測を示す記述および資料が記載されております。

これらの将来的予測に関する記述および資料は過去の事実ではなく、発表時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予測です。

また経済動向、他社との競争状況、為替レートなどの潜在的リスクや不確実な要因も含まれています。そのため、実際の業績、事業展開または財務状況は今後の経済動向、業界における競争、市場の需要、為替レート、そのほかの経済・社会・政治情勢などのさまざまな要因により記述されている将来予測とは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おきください。

不確実性および変動要素全般に関する詳細については、有価証券報告書、決算短信などをご参照ください。

サカタのタネ 投資家情報はこちら

<https://corporate.sakataseed.co.jp/ir/>



過去のニュースリリースはこちら

<https://corporate.sakataseed.co.jp/news/>

